

大草谷津田いきものの里 自然観察会

アカガエルの卵をさがそう

石嶋基次（千葉市）

日 時：2012年2月5日（日）10:30～12:00 天候：曇りのち晴れ

参加者：22名（大人13名 子ども9名）

担当指導員：山岸文子・石嶋基次

立春を迎えて春の訪れは遅く、日本海側や東北・北海道地方は大雪に見舞われ、被害が出ており、大草も凍りついている状態での観察会になりました。この寒さなので参加者は来るのか心配しましたが、定刻には元気な子どもたちを連れた親子組など22名の参加者が集まり無事に開催出来ました。

「いきものの里」の成り立ちと注意事項、今日の観察目的を説明してスタート。参加者が地面に落ちたキズタの葉の裏に止まり、寒さで身動きの出来ないウラギンシジミを拾い、皆で観察、林の中に戻しましたが、命がけの成虫越冬です。竹林では割れた竹の溜り水も凍っています。

谷津田の水源、自噴井の水温測定(14°C)を行い、特徴と稻作対策などで昨年秋から取り入れた流水方法などを説明。全面に水の張られた田んぼの前で卵塊を探しましたが、卵塊は発見出来ませんでした。氷の張った冬の谷津田には、鳥の姿も見られませんでした。

連日の低温では産卵されていないのは下見で分かっていましたが、参加者が自分で確かめて、その理由をなぜ？なぜ？問答で資料を説明しながら一緒に考えてもらいました。

- 資料 1) 2007年と2011年卵塊数・産卵場所の比較・2001年～2010年産卵数記録グラフ
- 2) ニホンアカガエルの産卵条件と自生地としての生態環境
- 3) 谷津田周辺の生き物の食物連鎖・自然環境

昨年末から現在までの気象変動を考え、目の前の凍てついた谷津田の光景に納得。しかし07年(537)に比べ、10年(169)、11年(81)と卵塊数の大幅な減少に参加者も心配をしていました。

ハンノキ林近くの田んぼで茶色の鉄細菌に触れ、油でないことを確認、水路でカワニナを採取、ホタルとの関係を知り、斜面林下の畦道で咲くタチツボスミレを子ども達が見つけて、僅かな春の気配を感じてもらい、真冬の谷津田観察会は終わりました。

～～ 春よ来い、早く来い ～～

《参加者の感想》カエルの卵塊数の減少はとても残念。自然の息吹を感じられ、子どもの頃にカエル事が出来た。初めて参加した、長靴を用意して次回また来たい。

《担当者感想》前回に続いて実物を見られない観察会になってしまった。「いつでも、どこでも」の精神で条件変化の中、次の観察会に繋げられたと思う。元気な子どもと親子での参加が多いのがうれしい。

